



令和元年9月4日

第2号

こども青少年局 保育・教育人材課 幼保小連携担当

「幼保小連携だより」

育ちと学びをつなぐ

今号は、夏の期間に行われた研修会や研究会の様子を紹介します。幼保小教育連携研修では、全体テーマを「学びに向かう力を育む保育・教育」とし、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手がかりとして、子どもたちの主体的に学ぶ意欲を育むために保育や教育はどうあればよいのか、ともに考える二日間となりました。

幼保小教育連携研修会

全体会：7月24日（水）関内ホール 分科会：7月25日（木）ウィリング横浜・技能文化会館

全体会

講演 「学びに向かう力を育む保育・教育」

講師：東京大学名誉教授 汐見 稔幸 先生

連携研修会は、全体会 899 人、分科会 901 人のべ 1,800 人の方々が参加され、充実した 2 日間になりました。ご参加いただき、ありがとうございました。

全体会での、汐見先生のご講演では、学びに向かう人間性を育むために、どのような学び方が子どもたちにとって大切なのか、興味深い内容を具体的にお話していただき、有意義な時間となりました。



汐見先生ご講演メモ

○非認知スキル

非認知スキルは生活のあらゆる場で身に付ける情報獲得・処理の身体化したスキルのこと。好奇心、興味や関心、発想力、アイデア力、粘り力、試行錯誤力、相談力、コミュニケーション力、説明力、感情コントロール力、自己肯定感などを指している。以前は、生活の中でそれぞれに身に付けたが、現在は、意識的に「育てるべき力」としてとらえる必要がある。

○実質陶冶と形式陶冶

知識を教え込むことではなく、学習活動のプロセスを通して思考の柔軟性、工夫する力、深い分かり方等思考力や判断を身に付けるという学び方を「形式陶冶」という。一方、直接的に使える知識や技能を教わるという学び方を「実質陶冶」という。「形式陶冶」が豊かであれば試行のイメージ性が身に付いているといえる。個々の知識・技能という内容的なものの習得よりも、学ぶ意志の力など子どものやろうとする気持ちを中心とする形式的な能力の陶冶が大切である。

○学びに向かう力の育成

「非認知的スキルの豊かな学び」と「形式陶冶の豊かな学び」を通して身に付けた力が、小学校以降の「主体的な学び」につながる。主体的で対話的で深い感動を伴う学びの実現や学びの芽生えを協同的な学びにつなげることにより、子どもたちに「学びに向かう人間性」が育つのである。

参会者の声

- 私自身、50年前の日常、子どもの姿を知らないのですが、汐見先生のお話を聞いて、生活の中から今、大切と言われている非認知能力が自然と育っていたのだと感じました。現在は便利で物が豊かになっていますが、子どもが育つ環境としては大切なものが失われつつあるのだと思います。環境を豊かにするため、教育機関が変わっていく必要性を強く感じました。まずは、一人ひとりの学びの芽生えを見つけたいと思います。
- 今、年長児を担当している自分の責任の重さをあらためて実感し、日々の生活、遊びを計画していきたいと思いました。子どもと一緒にいろいろなことを意欲的に取り組んで安心して就学を迎えられるようにしていきたいです。自分の日々の取り組みを記録していく必要も感じました。
- 汐見先生の講演の中で「アプローチカリを1年生の授業でも少し高度化していく」という考えが、今年のアプローチカリ・スタートカリの改善につながると感じました。小学校のスタートカリを考えるにあたって「安心」「自己発揮」をテーマに進めていくけれど、同じ遊び、似た環境づくり、子どもたちの知っている内容を題材にした教科学習への移行など、どうしても「適応」を目指した内容になっている気がしていました。しかし、遊びを高度化していく中で力をつけていく、という視点でカリキュラムを見直していけばその課題を改善していけるような期待がもてました。幼稚園・保育園の先生方と協力して今年度の課題を改善していきたいです。

実践報告・シンポジウムから

汐見 稔幸先生 渡邊 英則理事長(ゆうゆうのもり幼保園) 鮫島 良一園長(三松幼稚園)
唐沢 恵 園長(横浜市芦穂崎保育園) 柏原 麻美保育士(横浜市芦穂崎保育園)
益田 正子校長(横浜市立鶴見小学校) 高橋 功 教諭(横浜市立鶴見小学校)
高林 宏成教諭(横浜市立鶴見小学校) 小川 康介主幹教諭(横浜市立鶴見小学校)

シンポジウム メモ

- 接続期のカリキュラムでは、「できることは子どもたち自身がやる。やることによって自信をつける」「どの子どもでもできる、わかる居場所があることが大事。一人ひとりを見ることに力を入れてきた」「1年生に対する既成概念を見直す。鮫島先生の図画工作の授業実践からの学び」を大切にしている。
- 子どもと楽しく遊ぼうと考え1年生の図工の授業を行っている。子どもがしていることをよく見て、その子の遊びを感じることを大切にしている。
- カリキュラムは個別の履歴であり、学びは個別的なもの。鮫島先生の授業は、枠は作るけれど、作品をどう作るかどう表現するかは、子どもに任せ、さらに協同的な学びへとつなげている。
- 学びの個別性・協同性をカリキュラムにどう組み込んでいくかが今後の課題である。

参会者の声

- 鶴見小学校が実践しているスタートカリキュラムの内容を聞いて日頃の手遊びを学びにつなげたり絵本を読んで教科の内容につなげていったりと子どもたちにとって楽しく学んでいる様子が見られて素晴らしいと思った。子どもたちが意欲的に学びに発展しているのでこれが理想のスタートカリキュラムだなと思った。
- 主体的・対話的で深い学びについて、頭では何となく理解できていても、具体的に実践していくにはこちらがしっかりと子どもたちを見とっていかねばならないと感じた。本校でもスタートカリキュラムに沿って、「なかよし」「わくわく」「ぐんぐん」の3つの時間で入学当初から活動している。大変だと感じる事もあるが子どもたちがスムーズに小学校生活になじめたのはスタートカリキュラムのおかげなのと思った。
- 子どものエネルギーには計り知れない未来の力があることを改めて思いました。素晴らしい、胸が熱くなりました。
- 実践報告では、保・小の連携、無理のない移行がよくわかる報告でした。保育園での活動は、大変参考になりました。また、小学校の報告がとても興味あるもので、学校全体で子どもの育ちを考え見守っている様子を見せていただき感謝しました。

『横浜版接続期カリキュラム平成29年度版 育ちと学びをつなぐ』

『横浜版接続期カリキュラム 実践事例集 第6集』

どちらも市庁舎1階刊行物サービスコーナーで 1冊500円にて絶賛発売中



全体テーマ 「学びに向かう力を育む保育・教育」

～ 主体的・対話的で深い学びの実現にむけて ～

参会者の声

◆第1分科会（健康） テーマ：「自ら健康で安全な生活をつくり出す力を育てる」

○危険と思い最初からルールを作ってしまったことが自分は多いと感じた。特に体づくりの観点では、枠にはめることで運動機能が育たないところもあり、経験の違う保・幼から来た子どもたちが小学校でどのような経験をしていくのかと思うと、連携して目指す姿を見通すことが大切だと思った。

◆第2分科会（人間関係） テーマ：「身近な人と親しみ、人と関わる力を育てる」

○園での先行体験が小学校で生かされると聞き、園での一つ一つの体験を大切にしていこうと思った。人と関わる力の土台は、生理的欲求が満たされることから始まり、受け入れられ認められることを改めて感じ、保育園での0歳からの関わり大切さを再確認した。

◆第3分科会（環境） テーマ：「身近な環境に好奇心や探究心をもって関わり、生活を豊かにしていく力を育てる」

○豊かな経験が子どもたちの深い学びや主体的な学びにつながると感じた。園・校で子どものつぶやきを見逃さず、「こうしたい」と子どもが思いや願いをもって主体的に学んでいける環境を整えたい。子どもの育ちは連続していて連携の大切さを感じた。

◆第4分科会（言葉） テーマ：「経験したり考えたりしたことなどを自分なりの言葉で表現し、伝え合う力を育てる」

○心の安定や信頼関係、活動を充実させていくことが言葉の育ちに大きく関わっていることを再確認できた。安心できる環境が子どもたちの言葉を引きだし言葉が広がっていく。学習環境を整えるだけでなく、教育活動全体を見通しながら日々子どもたちと関わっていくことを心に誓った。

◆第5分科会（表現） テーマ：「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を育てる」

○雨の音を聞くという活動を実践したことはあったが、そこから雨の音を作る（表現する）という発展に考えが至らず、本日の提案を聞き感動しやってみてみたいと思った。幼保小の先生同士で、園や学校で1日体験などを実現できると園と学校の認識の差が小さくなると思った。学ぶ意欲、表現する意欲を大切に授業づくりをしていきたい。

◆第6分科会（特別支援教育） テーマ：「集団の中で生活することを通して、全体的な発達を促すとともに、社会性や豊かな心を育てる」

○幼保でのきめ細かな支援の実践を知り刺激を受けた。こうした取組を学校が知り子どもの視点に立つことは、安心した学校生活を送るのにはとても大切だ。本日の実践で共通するのは、先生方に愛があり、「どうしたらできるだろう」と寄り添って考えているところだ。「無理強いはいらない。でも、『今やるよ』のタイミングは外さないようにした」という言葉が印象に残った。



令和元年度 幼稚園新採用教員研修会 8月1日(木)・2日(金)

260名余の幼稚園、認定こども園の新採用者が、熱心に研修に取り組みました。

■1日目

全体会・シンポジウム

先輩の話「今、伝えたい私の保育」

グループディスカッション

「一学期の実践を振り返って」

■2日目

実技研修「表現しようとする意欲を受け止めて」

A リズム いろいろな音遊びを楽しもう

B 身体表現 遊び心をみがこう

C 造形 人とのつながりの中で表現しよう

D 自然 身近な自然と親しもう



日々の保育で見つけた「子どもの素敵な姿」の写真を持ち寄り、写真を見せながらエピソード等を話しました。

その後、模造紙に写真や保育の楽しみ、悩み等を書き込み、ポスターセッションの時に掲示をして発表しました。

造形での活動の様子です。紙コップを使い、それを切ったり積んだり貼り付けたりしながら楽しみました。創造力を発揮しながら楽しむ活動でした。

新採用教員のアンケートより

○同じような不安をもっている先生方と話し合うことができ、よかったです。保育は楽しいけど、難しい、大変・・・それがだいご味だと改めて感じました。

○他の先生方の考えや感じ方、子どもとの関わり方や子どもの気もちの受けとめ方など様々な発見ができました。自分の中での固定概念を変えた方がよいなと感じる部分もたくさんありました。悩みも他の先生方に共感してもらえる点があったので、話せてスッキリしたのと、自分だけではなかったという安心感もありました。

お知らせコーナー

研修名	日時・場所	内容
第2回 接続期研修会 新任児童支援専任教諭研修 と合同開催	10月24日(木) 15:00~16:45 南公会堂	・報告 保育園・小学校の実践報告 ・講演 「子どもに内在する力をひきだす」 ～向陽学園・桜坂分校の協働が拓く子どもの未来～ 講師 横浜市立新井中学校桜坂分校 副校長 西田 寛氏
幼保小連携フォーラム	12月14日(土) 13:00~16:00 南公会堂	・報告 幼稚園・小学校の実践報告 ・連携推進地区と参加者によるポスターセッション ・講演 「幼保小連携・接続のこれから」(仮) 講師 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 渋谷 一典氏 幼児教育課幼児教育調査官 河合 優子氏

※詳細は後日ご案内します。保育・教育人材課のホームページをご覧ください。